

# コウノトリと共に

2023年 第2号 2023年8月1日 発行



発行人：日本コウノトリの会  
〒669-6103 兵庫県豊岡市城崎町今津1362  
TEL：0796-20-8560 FAX：0796-20-6302  
ウェブサイト：https://www.owss-j.com/  
E:mail:8560toshima@iris.eonet.ne.jp



福井県丹生郡越前町八田での人工巣塔設置記念セレモニー 除幕式

- 代表挨拶 代表 佐竹 節夫
- ～幸せを呼ぶコウノトリの基地づくり～  
田んぼの天使自然再生プロジェクト 井上 幸子
- 河北潟のコウノトリ 日本コウノトリの会 会員 木村 透
- 2023年度 繁殖状況 事務局より
- 活動報告、お知らせ

# コウノトリから農業の将来を考える

日本コウノトリの会代表 佐竹 節夫

昨年の12月、各新聞は、新潟県内5市町村が環境省が公募したトキ放鳥候補地の応募を取り下げる方向、と報道した。放鳥候補地断念の理由は2つ。田んぼはトキの餌場になるので稲を踏み荒らされること、餌生物の生息のために農薬、化学肥料の使用が制限されることへの懸念があるからとのこと。この2つの懸念はコウノトリの場合と全く同じなので、豊岡の経験を踏まえて農業の将来を考えてみよう。

## 豊岡での害鳥説克服例

コウノトリはトキに比べると大型なので、苗を踏まれる庄はより強くなる。田んぼに入って餌生物を狙うのはサギやカラスもいるのだが、コウノトリはその容姿からとても目立つので（しかもお上から保護されるので）、江戸時代から害鳥の代表格となっていた。

豊岡で野外への放鳥が現実課題となった頃、農家の反発は相当なものだった。「被害補償の制度をつくってから放鳥せよ」と詰め寄られもした。窮地に立った行政に手を差し伸べてくれたのが、突如舞い降りてきた野生個体「ハチゴロウ」だった。彼は自由に田んぼの中を歩き、被

害の実態をみんなに見せつけてくれた。「それ」とばかりに行政、市民、そして農家で実態調査を行い、県豊岡農林事務所が踏まれた稲の追跡調査まで行ってみんなに開示した。結果、2005年から3年間の調査では、1羽のコウノトリが踏む苗は1時間当たり3〜6株、踏まれた株の8割弱は回復して生育し、欠株となった場合も周辺株が補償することが判明した。この結果を研究者に評価してもらい、「少なくとも減収にはならない」との結論となった。この調査は農家自身も参加されたので、「以前の害鳥イメージが払拭された」方も多く、以降、コウノトリ害鳥との声は、少なくとも私の耳には入ってこなくなった。

さらに、農林事務所は真逆の政策も併行して打たれた。コウノトリが田んぼに入ってくることは、その田んぼが健全な環境であること示しているとして、2006年に「コウノトリ舞い降りる田んぼ（地域）認定事業」を開始された。取り組む地域を申請に基づいて評価し、称えようとするものだ。現在は名称が「コウノトリ育む田んぼ」となり、豊岡市、養父市、朝来市、新温泉町で40カ所、約380㍍が認

定されている。コウノトリは「害を及ぼす者」から「自慢できる者」に変わった。

豊岡で、なぜ環境創造型農業がスタートできたか

コウノトリもトキも生息環境の悪化で滅びたので、野生復帰途上の今、「環境のシンボル」とされ、「安全安心な田んぼ」の象徴とされる。先の新聞によれば、新潟県は「放鳥候補地域の農家はすでに農薬や化学肥料の使用を減らす取り組みを実施されているので、更なる削減を行う必要はない」とし、「畦道に散布される除草剤も規制はしない」方針とのことだ。それにもかかわらず、農家には「自主的に農薬等を削減して、手で草刈りをするよう『無言の圧力』がかかるのでは」との疑念が根強いという。

「コウノトリを迎え入れるということは、今までどおりの農業ができないということですよ」。豊岡でも、近隣のまちでも、農薬を使えなくなる不安はどの地区からも噴出した。戦後の農業近代化の中で土地改良を行い、行政、JAの指示どおりに農薬、化学肥料を使って米作りを行ってきた農家にとっては、農薬を放棄するなどんでもないことに思えた。

豊岡の稲作を無農薬に導かれたのは、民間稲作研究所の稲葉光國先生だ。先生の説明は科学と経験に基づいた明瞭なものだった。「無農薬は

雑草駆除が大変だし、大きく減収する。1反に3俵しかとれない田んぼもある」の声に対して、「科学的に対処すれば、兼業でもできるくらいに省力化できる」「1反に8俵をめざそう」。コウノトリと共生するまちづくりに取り組む行政にとって、まさに光明が差したものであった。2003年から市のアドバイザーになってもらい、本格的に学習会、試行が始まった。

今、「コウノトリ育む農法」は、445.6畧まで広がっている。ここまで進んだ要因の一つが、農家（グループ化）、行政（県・市）、そしてJAの三者連携にあることは間違いない。けれども、その根幹には、「土や水や周りの生きものを見ながらコメをつくるのが日本の農家」という自意識があつてのことだと思う。農薬や化学肥料に頼っている間にその自意識が薄まっているだけと思う。

コウノトリは農業を持続可能にする最後のチャンスを与えてくれている

トキの放鳥候補地を断った件に戻ってみよう。（勝手に想像するのだが）ここでの農家の本音（心情）は、害鳥問題にあるのではないのだろう。それなら県内の佐渡島の農家や行政に聞けば、どういう状況かすぐ分かる。自分で確かめたいなら、行って調べればさらに分かる。農家の思いはそこではなくて、「農薬を使え

ない農業など、今さらやれと言われても出来ない。プライドもあるし」。ここにあるのではないか。自分も仲間も地域も、どんどん高齢化になっている。経営は集団化、機械は大型化、やり方はスマート化。「せめて自分が農業できる間は、これまでのやり方でやりたい」と思われるのが実情ではなからうか。そして同時に、この先がどうなるか、痛いほど分かっておられる。「このままでは、自分が死んだ後、農業は…孫の将来のことも気にかかる。

私は、このような厳しい状況の中でこそ、トキやコウノトリが力を貸してくれると思っている。コウノトリが採餌している田んぼでは、オタマジャクソやクモやゲンゴロウのことが嫌でも目に入ってくる。いろんなことが繋がりだしてくる。注意深く見ると、トノサマガエルがなんとカメムシを捕食（害虫駆除）するのに役立つことがある。当然、コウノトリが一番食べる。

お米作りへ生きものの効果が…。そんなとき、戦後の近代化農業の流れの中で、土や水や生きものを見ながら主体的に農業を行っていた頃の知識や技術はとくに手放してしまっただことに気が付く。ならば、（稲葉先生がいいけど、惜しくも亡くなられてしまった）外部の有機農家から一度話を聞くのもいいと思う。

その地に合った何等かのヒントがあるはずだ。コウノトリ（トキ）が舞い降りてきたら、ゆっくりその姿を見ることから始めるのもいいと思う。もう時間がない。今だと思っ。

## 幸せを呼ぶ コウノトリの基地づくり

田んぼの天使自然再生プロジェクト  
井上 幸子

水を湛えた田んぼから、自然の生態系を呼び戻したい、また次世代の子供たちに安全安心な美味しい「お米」を届けたいという二つの理念を掲げて、農薬や化学肥料を全く使わない『田んぼの天使』は誕生しました。平成4年から始めた取り組みは、今年で丁度30年になります。現在福井県丹生郡越前町宮崎地区の中山間や奥山を中心に、経営面積36畧（無農薬や有機田が10.2畧、減農薬田10.7畧）となり、ここ数年コロナ禍で中断したものの年2回、八田区、熊谷地区の2カ所で、「生き物・虫観察会」を実施しています。生き物が沢山によみがえった田んぼには7年前からコウノトリが頻繁にやってきてくれるようになりました。

設置場所は、専門家や、地域の方々、日本コウノトリの会と話しを進め、最終的に多くの野生や県内外のコウノトリの餌場や休憩場所になっている越前町八田区に決まりました。小山上に抱かれ、コウノトリが子育てに安心感を抱くゆるやかな棚田の中腹です。

4月7日に見るからに強固な支柱が建ち、10日には丸く優しい巣台が取り付けられて設置完了。4月15日には、人とコウノトリを繋ぐ儀式として子供さんをはじめ100人近くが参加者で心温まる除幕式を開催することが出来ました。

小雨が降る中を、早朝8時から八田区民の方々が集まり、テント幕張り、農道掃き掃除、造形の粘土やボカシ肥料準備など、また区民と共に県の職員の方々、越前町定住促進課のココルールのメンバーの方たちが駐車場案内や会場までの誘導をいただくなど、沢山の方々が黙々と作業を進めてくださいました。

不思議なことに、10時からの除幕式には雨が上がりが始め、主催者代表や遠く兵庫県豊岡市から駆けつけて下さった巣台寄付者の日本コウノトリの会の方々や佐竹代表、共催の八田区長の挨拶、喜んで参加頂いた白山地区のコウノトリの先進的に活動されている団体（\*越前市エコビレッジ交流センター\*コウノトリ

呼び戻す農法部会 \*ファームサギ草王国―安養寺 \*水辺と生き物を守る農家と市民の会)の代表の皆様の紹介を進めていくうちにすっかり雨も止み、参加者の皆さんで越前焼の粘土を使い思い思いの作品作りを楽しみ、水口の木炭埋め込みや、最後の餌場づくりセレモニーの肥料撒きには田んぼの中まで入って貝化石やボカシを紙コップに入れ幾度も「おかわり」をしながら撒き歩きました。



上:ボカシ撒き  
下:粘土の手びねり

朝起き掛けのかなりの雨が降る中、山合いの棚田での除幕式に、傘を差し長靴をはきながら出かけようと決意して下さった参加者の皆様には、今思い返しても感謝の気持ちでいっぱいになります。子供さんにはカッパを用意して…。

除幕式翌日16日と18日には1羽のコウノトリが巣台にやってきて止まり、夜通し眠り過ぎてくれました。足環から鳥取県で昨年5月8日に生まれた雄J0484とのこと。ま

た除幕式以降も小浜市生まれの雄や足環のない雌も頻繁に訪れてくれました。



上:五反田有機田に5羽のコウノトリが飛来(2/26)巣塔が建つことを喜びあっているかのよう。

左:除幕式翌日、巣塔にとまるJ0484

長年有機米づくりと生態系保全を掲げながら活動してきた「田んぼの天使」が、今回多くの人々に声を掛けながら環境のシンボルとしてのコウノトリ巣塔設置を果たした中で、今まで経験したことのないような予期しない負の一面が大きく膨らんでくるのを見る気が致しました。

日本の環境、食農の意識の低さがよく言われますが、今まで漠然としたものが逆に一つの流れのように動き始めたことを後ろ向きととらえるのか、時代の成長の兆しととらえて前へ前へと進むのか…。

今を生きる私たちが、未来の世代へ豊かな自然を残すためにどのような生き方でその責任を果たすことができるのか、共に学び確かな道筋をつけていきたいものと思います。

# 河北潟のコウノトリ

日本コウノトリの会 会員 木村透

河北潟にいるペアは、J0230(メス)と足環なし(オス)です。河北潟に飛来したのは2019年8月上旬で、最初は「すぐいなくなるだろう」と思っていました。4年が過ぎ5年目に突入しました。現在に至るまでの2羽の経歴を紹介します。

【J0230】2019年3月30日百合地巢塔生まれ。父J0025・母J0016(えっちゃん)の娘。巣立ちは6月4日で、その2日後に母J0016は死亡してしまいました。

【足環なし個体】最初に何処に現れたのかはわかりませんが、2018年の暮れから福井県・石川家加賀市あたりに足環なし幼鳥がいると聞いていて、実際私も2019年2月に加賀市で見えています。3月5日に加賀市から移動し、4月ごろに一度河北潟に飛来していったとの情報もありました。

J0230は、コウノトリ市民科学によると7月19日まで豊岡市に居て、24日には長浜市に居ることが確認されているので、その後越前を経由しながら河北潟に来たと考えています。たった4〜5日の間にこの2羽は出会って

以後行動を共にしている。2020年1月下旬には、河北潟から福井市へ移動。その時にJ0078、J0098と出会っているが、その後不明となっていました。ある日、新聞に河北潟から約20km付近の場所にコウノトリ飛来の記事があり写真をみると、なんとJ0230。記事から場所を特定して翌日行ってみると、J0230が「ココに居たよ」と出迎えてくれました。地域の方に写真を頂き見るとそこには4羽が映っており、J0204 J0206の姿もあり「いつ来たの？」状態だったのを覚えています。そして2020月6日に再び河北潟へ戻ってきました。

なぜ河北潟がいいの  
だろう？この頃から  
行動観察するようになり、  
罫や餌場が分かるようになりまし  
た。行動範囲はおおよそ  
1.5km以内、



河北潟足環なし

その中にはドジョウ  
がいる田んぼや有機栽培の  
レンコン田があります。  
農家が一年中手入れを  
されているので生物状況も  
良く、コウノトリの採餌  
環境にとっても良好な  
ことが見てとれます。

【河北潟巢塔】飛来2年目の7月頃から草を銜えたり、枝を電柱に運ぶのを目撃するようになりました。巣塔があればなあと思えど、自分一人では無理…。そんなときに日本コウノトリの会から一本の電話があり、「巣塔建てませんか」と。反対する理由はありません。様々な問題があると思うが、そのあたりは会や土地改良区にお任せにして、自分は候補地を探して3カ所程あげました。その後、多少の調整後2021年3月18日に建柱。感激！あとは巣塔を認識するのを待つだけとなりました。意外と早くその時が訪れました。巣塔から1.5km地点から足環なしが一直線に飛んで巣塔の上に乗ったのです。感激・感激！今年にはヒナ誕生は無いにしても来年は期待できるぞと。

【他個体の飛来】巣塔が建つ前は半年毎にJ0126が飛来する程度でしたが、建った後は5月4日・5日とJ0195とJ0205が飛来、巣塔上で交尾行動まで行いました。この時からJ0205<S J0230の構図ができています。その後、この195・205は能登方面の志賀町で繁殖ペアとなりました。翌年も同様にバトルがありそのトバッチリを受けていたのがJ0413と今は亡きJ0406です。その時上空を通過する個体もいて、巣塔が建った後はコウノトリの飛来数が増えています。

去年に至っては県内飛来したのが約30羽で、その内20羽以上が河北潟で確認できています。2年

前、越前生まれのJ0344・J0378・J0379・J0380の初めての冒険先が七尾市、河北潟でした。あまり情報がないJ0239、チョット若そうな足環なし、J0249を始め：数えたらキリがない状態です。

【繁殖行動】巢材運びの頃は「午前中は居るが午後は不明」で山手に行ってるのでしよう。産卵が近づくと午後の巢塔滞在が長くなりました。去年は産卵すれど孵化なし、当然行政は監視分析しており、自分も観察しています。自分がこの日以降のデータを確認してほしいと連絡すれば良いので、今年はスムーズに産卵、ふ化を確定できています。

今年の孵化日は4月23日、27日には3羽孵化を確認しました。5月7日を最後に、1羽減少しましたが、2羽は元気に育っており、7月2日と5日に無事巣立ちしました。

今、石川県ではトキ放鳥拠点の話が進められ



J0230とヒナ2羽

ています。さまざまな問題もあるかもしれませんが、県内でコウノトリの定着がスムーズに進んで来た事が、一つの参考になれば良いのかなと思っています。

## 2023年度繁殖状況

### 日本コウノトリの会 事務局

当会に寄せられている情報から、今年の繁殖状況をお知らせいたします。2023年度にコウノトリたちが巣作りを行った場所は、2022度の53ヶ所から63ヶ所となり、推定繁殖ペアは47ペアから51ペアとなりました（表1）。新たに繁殖が確認された都道府県は、茨城県と香川県と広島県の3県です。繁殖地は表1（次ページ）で示しておりますので、こちらも併せてご覧いただくとわかりやすいかと思えます。

繁殖に利用された場所の内訳としては、巣塔が38ヶ所、その他（電柱など人工物）が4ヶ所となりました。2022年度は、巣塔が33ヶ所、電柱などが13ヶ所でした。

繁殖に至ったものの卵の収容など、ふ化しなかったペアは8ペアでした。（表1 青字の地点）ペアの内、2羽ともがこれまで繁殖した実績がない新規のペアは10ペアで、その内巣塔を利

用したのが4ペア、電柱などを利用したのが6ペアです。また、相手が変わった（片方が昨年繁殖）のは5ペアで、4ペアが巣塔の利用、1ペアが電柱の利用です。

ヒナのふ化後、親にトラブルがありヒナが救護されたのは3拠点でした。（表1 赤字の地点）

今年も、前年に比べて造巢・営巣場所が増加するという結果になりました。また、今年野外で生まれたコウノトリは100羽を超える予想です。特に今年は、1拠点当たりのヒナ数が多かったように感じています。ヒナ数を繁殖拠点数で割ると、平均2羽以上の値が出てきます。

数が増えればそれだけケガなどのリスクも高くなるのか、前述のヒナが救護された地点では、親が死亡もしくは救護されました。兵庫県養父市では母鳥が電車との接触で亡くなり、京都府綾部市では足を骨折し、衰弱（推定）により亡くなったとのことです。兵庫県豊岡市山本では、母鳥がテグスに引っ掛かった状態で発見され、コウノトリの郷公園に救護されました。また、兵庫県豊岡市で繁殖し子育てを行っていたエヒメが、ヒナが巣立ちをする数日前から行方が分からなくなっており、現在もその姿が確認されていません。繁殖中のペアのトラブルが、これまでで一番多くなった印象です。また、関係性があるのかは分かりませんが、いずれも母鳥にトラブルが発生することとなりました。

No	都道府県	市町			♂	♀	産卵	営巣場所
1	石川県	津幡町		湖東	なし	J0230	○	巢塔
2		津幡町			J0367	J0279	○	電柱
3		羽咋郡 志賀町			J0195	J0205	○	電柱
4	茨城県	神栖市		矢田部	J0329	J0342	○	巢塔
5		神栖市			J0310	J0214	○	電柱
6		行方市			J0388	J0259	○	その他
7	香川県	仲多度郡	まんのう町		J0126	J0203	○	電柱
8	京都府	綾部市	上杉町		J0213	J0170	○	巢塔
9		綾部市	西方町		J0227	J0220	○	巢塔
10		綾部市	梅迫町		J0241	J0233	○	巢塔
11		綾部市			J0174	J0179	○	巢塔
12		京丹後市	久美浜町	市場	J0150	J0089	○	巢塔
13		京丹後市	久美浜町	永留	なし	J0131	○	巢塔
14	京丹後市	網野町	島津	J0046	J0053	○	電柱	
15	佐賀県	杵島郡	白石町		J0141	J0133	○	電柱
16	島根県	雲南市	大東町	仁和寺	J0118	J0051	○	巢塔
17	徳島県	鳴門市	大麻町	坂東	J0044	J0480	○	電柱
18	栃木県	小山市		下生井	J0128	J0238	○	巢塔
19	鳥取県	東伯郡	北栄町		J0240	J0172	○	電柱
20		鳥取市	気高町		J0125	J0123	○	巢塔
21		八頭郡	八頭町		J0135	J0144	○	巢塔
22	兵庫県	朝来市	和田山町	久田和	J0173	J0157	○	巢塔
23		朝来市	山東町	三保	J0112	J0015	○	巢塔
24		淡路市		大町下	J0200	J0167	○	電柱
25		加古郡	稲美町		J0289	J0339	○	巢塔
26		豊岡市	出石町	上野	J0277	J0152	○	巢塔
27		豊岡市	城崎町	戸島電柱巢	J0122	J0103	○	電柱
28		豊岡市		赤石	J0426	J0017	○	巢塔
29		豊岡市		野上	J0001	J0362	○	巢塔
30		豊岡市		福田	J0177	J0010	○	巢塔
31		豊岡市		庄境	J0476	J0059	○	巢塔
32		豊岡市	日高町	万劫	J0212	J0184	○	電柱
33		豊岡市		百合地	J0025	J0100	○	巢塔
34		豊岡市		河谷	J0178	J0114	○	巢塔
35		豊岡市	出石町	袴狭	J0500	J0428	○	巢塔
36		豊岡市	出石町	森井	J0057	J0130	○	巢塔
37		豊岡市	出石町	伊豆	J0381	J0296	○	巢塔
38		豊岡市	日高町	山本	J0011	J0024	○	巢塔
39		豊岡市		下鉢山	J0054	J0156	○	巢塔
40		豊岡市	但東町	唐川	J0151	J0501	○	巢塔
41		豊岡市	日高町	広井	J0180	J0087	○	巢塔
42		豊岡市	城崎町	戸島	J0391	J0102	○	巢塔
43		豊岡市		祥雲寺	J0083	エヒメ	○	巢塔
44		養父市	八鹿町	伊佐	J0013	なし	○	巢塔
45	広島県	世羅郡	世羅町		J0317	J0312	○	電柱
46	福井県	越前市	中野町		J0481	J0119	○	巢塔
47		越前市	下中津原町		J0161	J0078	○	巢塔
48		越前市	安養寺町		J0169	J0132	○	巢塔
49		小浜市		太良庄	J0206	J0196	○	巢塔
50		鯖江市	田村町		J0301	J0218	○	巢塔
51		三方上中郡	若狭町	鳥羽	J0314	J0331	○	巢塔

表1:全国繁殖状況 (都道府県の五十音順)

※表中のなし(足環未装着)のコウノトリについて。  
 コウノトリ市民科学では、石川県津幡町をK0001。  
 京都府京丹後市永留をN0001。  
 兵庫県養父市伊佐をW0001として登録しております。

コウノトリ市民科学へ登録いただいている情報から、新繁殖地の様子をご紹介いたします。  
拠点名と登録者名を表記しています。  
(敬称略)



茨城県神栖市  
神栖のキョロ



茨城県神栖市矢田部  
神栖のキョロ



兵庫県豊岡市万劫  
める



兵庫県稲美町  
やっくん



石川県津幡町  
メタモン



福井県若狭町  
あじ



広島県世羅町  
竹の子



兵庫県豊岡市上野  
猫ママ

## 活動報告とお知らせ

事務局より

### ○対馬にコウノトリの人工巣塔を建てました

去る3月、長崎県対馬市内に予定どおり人工巣塔―基を建てることができました。場所は、島の中で最も広い水田地帯のある佐護地域です。

ご承知のとおり、対馬は福岡から100kmですが、韓国釜山からは50kmしか離れていません。歴史的にも日本と大陸の架け橋であり、渡り鳥も多くが中継地に利用していますし、日本で放鳥されたコウノトリも舞い降りたことがあります。

当会は、これまで各地にコウノトリの生息地(繁殖地)をつくるために人工巣塔の設置を展開し、成果を上げてきました。同じくコウノトリ野生復帰に取り組まれている韓国でも、各地に放鳥拠点・人工巣塔の設置を進められています。そんな中で、すでに日本から韓国へ1-2羽が渡り、韓国からは2羽が飛来しています。そこで、コウノトリ野生復帰の最終形を『かつての分布域・東アジアの環境改善が進み、コウノトリが広く行き来して繁殖する』というイメージに基づいて、日本と大陸を意識的につなげるよう、新たに対馬に設置したものです。

設置は、日本側と韓国側の共同行為とするため、当会と韓国コウノトリ愛の会（イエサン郡を拠点とする市民グループ）で費用も折半して行いました。巢塔建立の土地は、大型渡り鳥のためにビオトープが造成されている近くの民地をお借りしました。地権者、地元地区、農会、土地改良組合の方々の調整には、対馬市自然共生課の神宮周作係長に多大なお世話になりました。紙面を借りてお礼申し上げます。

設置を記念して、3月25日には、現場で韓国コ



対馬にて人工巢塔設置

ウノトリ愛の会と巢塔完成を確認し、喜び合いました。午後は当会、韓国コウノトリ愛の会、ラムサール・ネットワーク日本、韓国湿地NGOネットワークの4者共同により「第7回日韓NGO湿地フォーラム」が開催され、当会の永瀬会員も日本のコウノトリ野生復帰の進展状況を報告しました。今後のコウノトリの飛来・定着が期待です。



共同フォーラムの様子

### ○韓国では

野外繁殖状況としては、今年は今時点で40羽が増えているとのことです。

また繁殖の拠点としては、トータル6ヶ所

での造巢、産卵が確認され、利用されたのは巢塔が9ヶ所で、残りの7ヶ所は鉄塔や送電塔等が利用されているようです。

韓国にいるコウノトリの羽数も増加傾向で、一昨年には85羽、昨年は117羽、そして今年には148羽になっているようです。

また今年の繁殖個体内、韓国国内で放鳥・誕生したコウノトリ以外、つまりロシアもしくは中国で繁殖したであろうコウノトリとペアになったのが2ペアいるようです。これまでも韓国で越冬しているコウノトリがいるという情報がありました。地続きであるからかロシアと中国にいるコウノトリの集団と韓国の集団の交流が容易なのだという印象を受けています。

### ○これからは

韓国、そしてロシア・中国の交流がより重要になってくると予想されます。数年前には韓国の研究者がロシアでの人工巢塔を共同で設置する等、大陸では連携行動が進んでいます。また中国では黄河デルタをはじめ、大規模な保護区を次々と設置するなど、環境保護活動の取り組みも大々的に進んでいます。

これまでも、いろいろな分野でのグローバル化が論じられてきていました。実際、スマート

フォンの普及をはじめとしたインターネットの発展により、国際間での情報の行き来は明らかにグローバルにそしてスピーディーになってきています。くわえてSDGs(持続可能な開発目標)という言葉もよく聞かれるようになり、これまで以上に国際協力、環境の保全が国内外でフォーカスされることでしょう。

ロシア・中国との交流は、国際社会の状況もあり、現在では難しい面がありますが、今回対馬に韓国の市民団体と共同で人工巣塔を設置することが出来た事は、日本とユーラシア大陸とのコウノトリを引き合わせるシンボルとなるだけでなく、人々との交流の架け橋として大きな意味を持ちます。今回の人工巣塔設置を契機に交流がますます活発になりますように。

### ○韓国の市民グループと活動連携の基本協定を結びました

韓国には、当会と同じようにコウノトリの野生復帰を市民の立場で取り組まれている「韓国コウノトリ愛の会」というNPOがあります。これまでも、双方が訪問し合って交流していましたが、対馬に人工巣塔を共同で設置することになったことを契機に、将来的に連携していくための協定をしていこうと、その準備を進めていました。

去る3月25日、双方が集った対馬で、当会の佐竹節夫代表と愛の会のカン・ヒチュン代表が調印し、正式に連携を進めていくこととなりました。

協定の内容は、活動(第2条)

1) 日本、韓国内にコウノトリ営巣用の人工巣塔を共同で設置すること。  
2) コウノトリ保護に係る人的交流を行うこと。

3) コウノトリ保護に係る教育・広報等を行うこと。

となっております。協定の期間は5年とし、以後意義がなければ自動更新されます。

最初是对馬で巣塔を設置しましたので、次回(2024年?)は韓国内での設置に向けて詰めていきたいと思えます。

なお、当会はこの他に、2019年5月23日に韓国の都市の森センター社会的協同組合ともコウノトリの保護活動について、基本協定を締結しています。内容は、コウノトリへの関心と理解を深めるために教育、共同セミナー、ツアーなどの活動を連携して行っていこうというものです。現在、自動延長中です。



調印の様子

### ○地元の有志が立ち上がる

コウノトリが飛来する―そのうち、ペアになった2羽が繁殖できる場所を探す―人工巣塔がないので電柱や電波塔で巣づくりする―電力会社に撤去される、ということが各地で起こっています。とくに豊岡市の戸島と万劫地区では、撤去されたコウノトリは、なにくそともう一度巣づくりする―電力会社に撤去される―仕方ないので近くの電柱に移って巣づくりする―撤去される―涙ながらに代わりの電柱で巣づくりする―撤去される…。こうなると、私たちもそうだけどもその様子を見守る地元の方たちは「何とかならんのか」と歯ぎしりする。行政は年度途中に急に言われても、予算措置していないので「無理」と回答。弱小団体の当会も限界があります。

今春、ついに「あまりにもコウノトリがかわいそうではないか」「えーい、我々が何とか巣塔を建てよう」と、2つの地区(有志)が立ち上がられました。

戸島地区ではこの3年間、こんな光景が何度も何度も繰り返されてきました。もう限界とばかり、一人の方が発起し、4月19日、有志の会で人工巢塔を建てられたのです。

市の動きも早く、市有地が設置場所に供されました。

コウノトリも住民の熱意に添えて・とは、今のところなっていないませんが、来年にはきっと・・・。



豊岡市城崎町戸島での巢塔の設置

もう一つの万劫地区は神鍋高原にあります。コウノトリのペアは今年初めてここで巣づくりを始めたのですが、状況は戸島と同様。

高原の麓では、伊府地域で湿地づくりや広井地区で個人による巢塔が建てられたりと、コウノトリ保護活動が熱心なグループもあるので、皆さん気になって仕方ありません。ついに動きが始まり、区長さんが中心に有志で、4月12日、人工巢塔が設置されました。ここでも、急ぎよ市有地が供され

ました。  
来年はきっと・・・。



豊岡市日高町万劫での巢塔の設置

### ○河北潟の人工巢塔よりヒナが2羽巣立ちました

2018年12月1日、足環のないコウノトリが石川県加賀市で確認されたから、これまでに多くの情報がコウノトリ市民科学にも寄せられています。2019年8月からJ0230と経過すようになり、この足環のないコウノトリを、コウノトリ市民科学ではK0001として登録しております。2020年京丹後市島津電柱巢から巣立った3羽に足環が装着されま

せんでしたが、当会に寄せられている情報からJ0230と経過している足環のない成鳥は大陸由来のコウノトリであり、この2羽の繁殖のために石川県河北潟で人工巢塔を立てさせていただきました。これもひとえに飛来先で熱心に観察をされた皆様のおかげで追跡することが出来ており、これがまさしく市民科学ではないかと思えます。

昨年、この巢塔に営巣し産卵もしましたが、孵化まで至りませんでした。今年は順調に孵化して2羽のヒナが巣立ちました。

詳しくは、本誌に掲載されている木村会員の記事をご覧ください。

### ○エヒメについて

エヒメは今年、孫のJ0083とペアになり、3羽のヒナ(J0633 J0634 J0635)が6月12日(月曜日)に巣立ちました。12日の朝に目撃したという情報がありますが、コウノトリの郷公園のライブ映像によると8日のヒナへの給餌が最終確認とのこと。当会には有志でできる限り探しましたが、個人では入れないところや、農会へ了解をとり入らせていただきたい場所もあり、6月26日に集まり探しましたが見つかることはありませんでした。子育て中に帰巢しないことは・・・と、参加者皆が思っていますが一縷の望みを持ち、観察に行く方も多いです。

繁殖期以外でも、郷公園周辺に行けばエヒメに出

会うことができました。エヒメの子供たちが繁殖している地域の方は、豊岡に来たら「郷公園でまずエヒメに会って」と楽しみにされています。できることなら、元気な姿を見せてほしいです。



6月26日 エヒメ搜索

お知らせ

○福井県越前町でコウノトリ市民科学を核とした交流会を行います。

日時：8月27日(日)9時30分～11時30分  
(受付：9時)

場所：越前陶芸村文化交流会館

福井県丹生郡越前町小曾原7の8

内容：「コウノトリ市民科学の力と可能性」

「コウノトリ市民科学から見た福井県のコウノトリ」

「意見交換、参加者交流会」

参加申し込み方法は、氏名、住所、連絡先を電話またはメールにて事務局までご連絡ください。

連絡先：表紙の連絡先まで

申込期限：8月20日まで

○編集部より、ニュースレター命名について

ニュースレターの名称を募集したところ、次の通り応募がありました。

- ①「こうちゃん便り(コウちゃん便り)」
- ②「こうちゃん通信(コウちゃん通信)」
- ③「翼」(ひらがなの「つばさ」も可)
- ④「大空」(ひらがなの「おおぞら」も可)
- ⑤「コウノトリと共に」

編集部で協議した結果、「コウノトリと共に」に決めさせていただきました。コウノトリと共に自然や暮らし方をみつめ、活動を進めていきたいです。皆さん、よろしく願っています。

ご応募してくださった皆様、ありがとうございました。

○原稿、川柳を募集しています

送付方法

○原稿は1500字程度を目安に。メールまたはFAXにてお送りください。

○川柳は、作品と解説をメールまたはハガキにてお送りください。(送り先 表紙に記載)

メールの件名は、それぞれ「会報誌の原稿・川柳」など、わかりやすいものにしていただけますと、ありがたいです。

○編集後記

14年間勤めさせていただいた、ハチゴロウの戸島湿地を3月末で退職しました。コウノトリを通じて、多くの出会いに恵まれ幸せです。また、たくさんの方にお世話になり、感謝の気持ちでいっぱいです。そして何より嬉しいことは、新たな世代へバトンを繋ぐことが出来たことです。

退職後は、地域の行事への参加や、友の会のお役を受けれたこと、朝仕事を気持ちよくできることなど、小さな喜びに満ちた日々を過ごしています。(森)

先日、稲美町のコウノトリの繁殖巣塔を視察させてもらう機会を頂きました。企業の方が積極的にコウノトリの保全と環境保全型のお米作りに取り組んでいる様子を聞かせてもらい、その取組にとっても感銘を受けました。コウノトリを含む生態系は、私達人間社会の重要な基盤であり、すべての企業が少なからず生態系や生物多様性に依存しています。世界各地で、稲美町の企業のような取組が少しでも広がる事を願うとともに、そこに少しでも貢献できるように成長していきたいと改めて感じました(井上) 毎度のことですが、この時期は各地の子育ての知らせにてんやわんやになります。ただそれも、いつか会えるかなと想像したりするので、楽しい時でもあります。(永瀬)